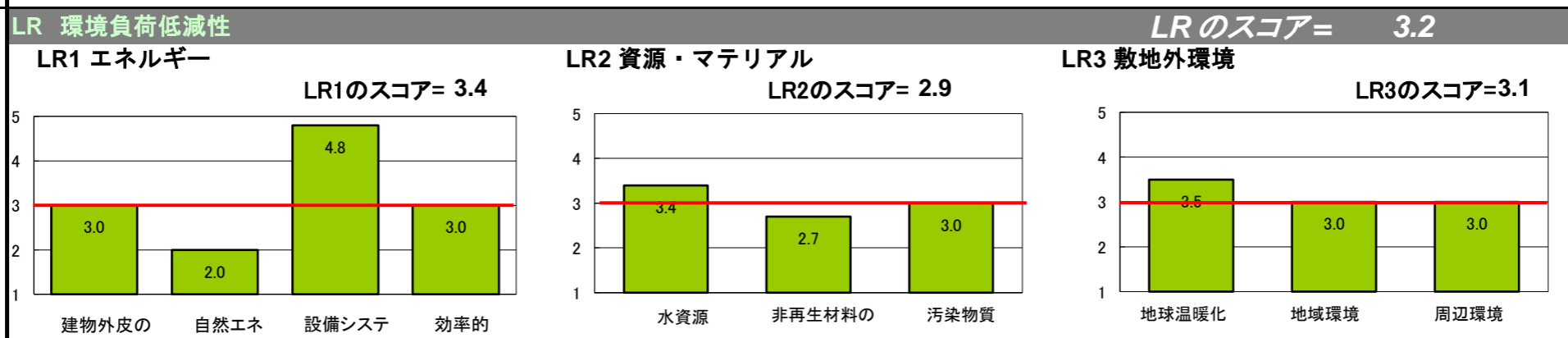
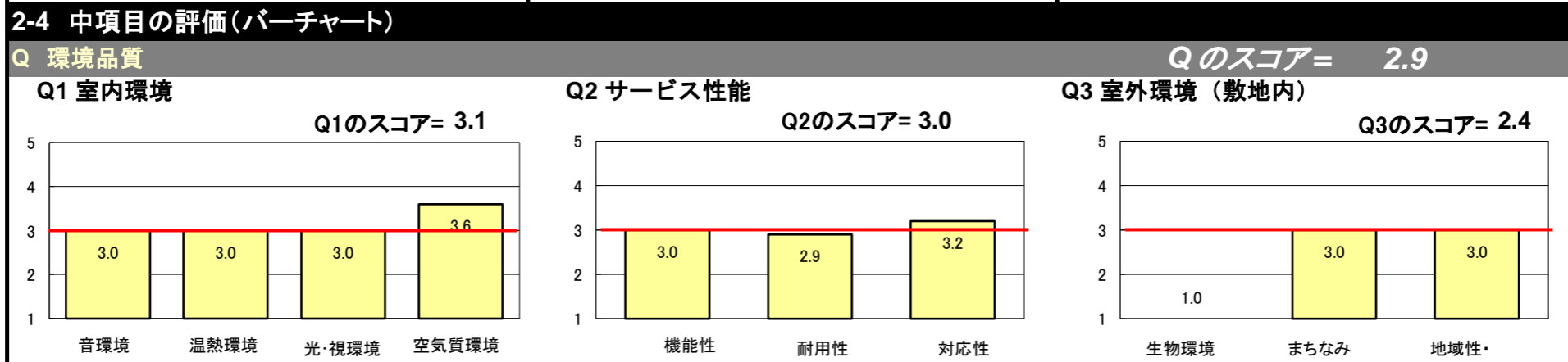
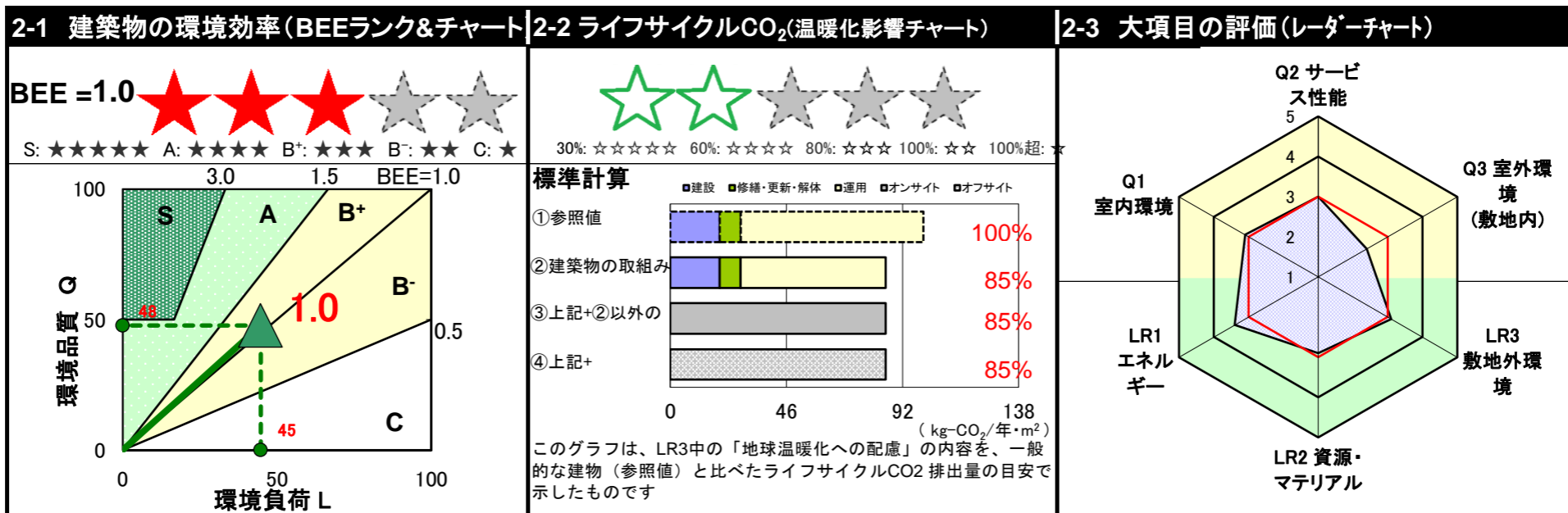


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	meLiV刈谷	階数	地上11階
建設地	愛知県刈谷市若松町1丁目94の一部, 他9筆	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年3月 予定	評価の実施日	2020年10月29日
敷地面積	1,061 m ²	作成者	大橋 葵
建築面積	329 m ²	確認日	2020年10月29日
延床面積	2,665 m ²	確認者	浅沼 宏泰



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td style="text-align: center;">3.7 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	3.7 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	3.7 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階									
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質										2.9	
Q1 室内環境						0.40				3.1	
1 音環境						0.1	3.0	0.15	3.0	3.0	1.00
1.1 室内騒音レベル						3.0	3.0	0.50		3.0	0.50
1.2 遮音						0.5	3.0	0.50		3.0	0.50
1 開口部遮音性能							3.0	1.00		3.0	0.30
2 界壁遮音性能							3.0	-		3.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							3.0	-		3.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							3.0	-		3.0	0.20
1.3 吸音							3.0	-		3.0	-
2 温熱環境						0.3	3.0	0.35	3.0	3.0	1.00
2.1 室温制御						0.5	3.0	0.50	3.0	3.0	0.50
1 室温						3.0	-	-		3.0	0.63
2 外皮性能						3.0	3.0	1.00		3.0	0.38
3 ゾーン別制御性						3.0	3.0	-		-	-
2.2 湿度制御						3.0	3.0	0.20		3.0	0.20
2.3 空調方式						3.0	3.0	0.30		3.0	0.30
3 光・視環境						0.2	3.0	0.25	3.0	3.0	1.00
3.1 昼光利用						0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.35
1 昼光率						3.0	3.0	0.60		3.0	0.50
2 方位別開口							-	-		3.0	0.30
3 昼光利用設備						3.0	3.0	0.40		3.0	0.20
3.2 グレア対策						0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.35
1 昼光制御						3.0	3.0	1.00		3.0	1.00
3.3 照度						3.0	3.0	0.15		-	-
3.4 照明制御						3.0	3.0	0.25		3.0	0.29
4 空気質環境						0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00
4.1 発生源対策						0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63
1 化学汚染物質					化学汚染物質を使用しない。	3.0	4.0	1.00		4.0	1.00
4.2 換気						0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38
1 換気量						3.0	3.0	0.50		3.0	0.33
2 自然換気性能						3.0	3.0	-		3.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮						3.0	3.0	0.50		3.0	0.33
4.3 運用管理						-	-	-		-	-
1 CO ₂ の監視						3.0	3.0	-		-	-
2 喫煙の制御						3.0	3.0	-		-	-
Q2 サービス性能						-	-	0.30	-	-	-
1 機能性						0.4	2.3	0.40	3.2	3.2	1.00
1.1 機能性・使いやすさ						0.4	1.0	0.40	3.0	3.0	0.60
1 広さ・収納性						3.0	3.0	-		3.0	-
2 高度情報通信設備対応						3.0	3.0	-		3.0	1.00
3 バリアフリー計画					独自	3.0	1.0	1.00		-	-
1.2 心理性・快適性						0.3	3.0	0.30	3.5	3.5	0.40
1 広さ感・景観 (天井高)					居室の天井高2.5m以上	3.0	3.0	-		4.0	0.50
2 リフレッシュスペース						3.0	3.0	-		-	-
3 内装計画						3.0	3.0	1.00		3.0	0.50
1.3 維持管理						0.3	3.5	0.30		-	-
1 維持管理に配慮した設計						3.0	3.0	0.50		-	-
2 維持管理用機能の確保					メンテナンスを考慮した建築計画と設備配置		4.0	0.50		-	-
2 耐用性・信頼性						0.3	2.9	0.31	-	-	-
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.4	3.0	0.48	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能						3.0	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数						0.3	3.0	0.33	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数						-	3.0	0.23	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					②	-	3.0	0.23	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						-	3.0	0.09	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						-	3.0	0.08	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						-	3.0	0.15	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔						-	3.0	0.23	-	-	-
2.4 信頼性						0.1	2.6	0.19	-	-	-
1 空調・換気設備						3.0	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備						3.0	2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備						3.0	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法						3.0	3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備						3.0	2.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.6	3.6	0.50	
1	階高のゆとり		-	3.0	-		4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	2.0	0.17	-	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.86	3.0	4.8	0.33	-	-	-	4.8
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	-	-	-	-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	1.00	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	4.0	0.24	-	-	-	
									解体時に容易に分別ができる計画
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:3.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	周辺に生活利便施設が充実している駅近くに立地し、1Kと2LDKを基本とした住戸構成の賃貸共同住宅。Low-Eガラスを採用するなど、省エネルギー性に配慮した計画とした。
Q1 室内環境	入居者が快適に過ごせるように、自然光を積極的に取り入れた明るい空間となるよう計画した。また、高効率な設備を取り入れた屋内環境とした。
Q2 サービス性能	配管部材及び空調換気ダクトについては、耐用年数の長いものを採用した。また、維持管理が容易な部材選定を行った。
Q3 室外環境(敷地内)	適宜緑化を行い、周辺環境に配慮している。
LR1 エネルギー	照明設備については、すべての機器にLEDを使用し環境負荷の低減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	節水にも配慮した設備を取り入れることで、環境負荷の低減を図った。また、有害物質を含まない材料を積極的に採用した。
LR3 敷地外環境	建物に伴って発生するCO2の発生量を低く抑えることで地球温暖化に配慮した。
その他	